1000年先の未来へ。
美しい里、豊かな海

satoumi project
Seto Inland Sea, Kagawa

かがわ里海大学2018　一般コース

一から学ぶ海ごみ講座
開催しました！

■日時 平成31年1月19日(土) 10:00～12:00
■会場 東かがわ市山田海岸
■講師 森田 桂治氏
（NPO法人アーキヘラコ理事 ）
■青少年育成東かがわ市民会議との連携企画

1月19日（土）、東かがわ市山田海岸にて、一から学ぶ海ごみ講座が行われ、19名が受講しました。現在、世界で注目されている「マイクロプラスチック」の問題を中心に、海ごみについての現状と、海ごみがもたらす影響について学びました。

まず最初に、北山コミュニティセンターにて、スライドを用いて海ごみについて解説がありました。

瀬戸内海のごみは、潮の流れに乗って遠く外国の島にも行き着き、そこに住む鳥などがごみを食べてしまうという話がありました。

瀬戸内海にあるごみはどんなものが多いのか、それらのごみはどこからやってくるのかについて、グループディスカッションが行われ、参加者からは川を流れてやってくるタバコやペットボトル、漁業や釣りで使っていた資材が多いと回答がありました。

つづいて、実際に香川県の海で採集された「マイクロプラスチック」を観察しました。

「マイクロプラスチック」とは、大きさが5ミリ以下の微細なプラスチックのことで、プラスチック製品の原料である「レジンペレット」や「肥料カプセル」、ストロー状のパイプや人工芝の破片などさまざまなものがあります。参加者はさまざまなマイクロプラスチックを分類するワークを体験しました。

その小ささから、これらを回収することは非常に困難であると体感しました。

講座の後半は、山田海岸で実際にマイクロプラスチックを探すフィールドワークを行いました。

一見、きれいに見える砂浜でも、よく見るとマイクロプラスチックが潮間帯に沿って落ちていました。合わせて海岸に落ちている大きなプラスチックごみを回収しました。

最後に拾ったマイクロプラスチックを分類して、グループごとに発表を行いました。

参加者からは「マイクロプラスチックを回収することがどれだけ大変か知ることができた。ごみを出さない生活を心がけたい。」「日頃の生活で発生するごみが海に流れ着いている現状を知ることができ、これからの生活でごみを減らしていく工夫が必要だと感じた。」との声があがりました。